

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
日本工学院専門学校		昭和51年7月1日		山野 大星		〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-3732-1111			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人片柳学園		昭和25年3月1日		千葉 茂		〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-6424-1111			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
文化・教養	芸術専門課程	音響芸術科	平成21(2009)年度	-	平成27(2015)年度				
学科の目的	音楽・音響ソフトに関する専門知識、技術を学び、映像・音響ソフト産業のコンテンツ制作で幅広く活躍できるサウンドエンジニアを養成する。								
学科の特徴(取得可能な資格、中途退学者等)	ビジネス能力検定3級 116名合格、映像音響処理技術者資格認定(JPPA) 47名合格、Avid ProTools101 126名合格、Avid ProTools110 126名合格 中途退学者5名(1.9%)								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いづれかに記入 1,710 単位時間 単位		1,095 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,470 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
240人	261人	2人		1%					
就職等の状況	■卒業者数(C) : 125 人 ■就職希望者数(D) : 120 人 ■就職者数(E) : 120 人 ■地元就職者数(F) : 76 人 ■就職率(E/D) : 100 % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 63 % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 96 % ■進学者数 : 5 人 ■その他 進学者数5名: 1名(東京工科大学 メディア学部 メディア学科3年次編入) 1名(尚美学園大学 芸術情報学部 情報表現学科3年次編入) 1名(武蔵野美術大学通信教育課程 造形学部デザイン情報学科3年次編入) 1名(八洲学園大学 生涯学習学部 生涯学習学科3年次編入) 1名(大原法律専門学校 法律行政2年学科入学) (令和 4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 音楽・レコーディング・ラジオ・映像編集業界 等(マトリクススタジオ、サンフォニクス、音響ハウス、サウンドキューブ、サウンドクルー等)								
	第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有的場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL							
	当該学科のホームページURL	http://www.nec.ac.jp/department/design/graphics/							
	企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
		総授業時数		2,550 単位時間					
			うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		810 単位時間				
			うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間				
			うち必修授業時数		1,320 単位時間				
			うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		570 単位時間				
			うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間				
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		540 単位時間					
(B: 単位数による算定)									
		総授業時数							
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		- 単位					
		うち企業等と連携した演習の授業時数		- 単位					
		うち必修授業時数		- 単位					
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		- 単位					
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		- 単位					
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		- 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				4人		
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1人		
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0人		
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1人		
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1人		
	計						7人		
		上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				3人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

レコーディング分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。またレコーディング分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容及び方法について検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。

意思決定に関しては学科教員と学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名及び企業関係者と協議の上、教育学生支援部、副校長、校長と協議の上決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
岸 賢一	一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 理事	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	①
青砥 須比古	株式会社フリーマーケット 代表取締役	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	③
大野 昌寛	株式会社キング関口台スタジオ 経営企画部長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院専門学校 校長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
中村 英詞	日本工学院専門学校 ミュージックカレッジ カレッジ長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
我妻 拓	日本工学院専門学校 ミュージックカレッジ 音響芸術科 科長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
大塚 勝哉	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 課長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間開催数は2回の予定、開催時期は9月及び3月の予定

(開催日時(実績))

第1回 令和4年 6月28日実施

第2回 令和5年 3月22日実施

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

社会が求める人材も多様化しており、レコーディングや編集技術といった専門分野だけに興味関心をもつのではなく、何事にも興味を持ち多彩な感性を養っていきける教育を求められている。また、人との関わり方、いわゆるコミュニケーション能力の向上もビジネスをしていく上で必要なスキルとなることから、入学時からオリエンテーションではグループワークを多様することで、自分の気持ちを相手に「伝える力」、そして、相手の意見を正しく「聞く力」を身につけられるよう取組み、学生達のコミュニケーション能力の向上に努めている。また、授業においても一方通行型の授業だけではなく、チームで協働するカリキュラムも増やし、社会で活躍ができる人材育成に取り組んでいる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

レコーディングの実習において実践的な指導を受けるために音楽録音の実績のある企業を選定している。また、指導を受けるにあたっては各分野で必要となる知識、技術、感性を有している講師の派遣などの協力が得られることが可能な企業を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学科担当教員と株式会社ミキサーズラボ、株式会社マトリックス間で音響技術や知識について意見を交換し、授業計画、評価方法、学生指導上の問題点、改善案などを計画し実習を行う。企画立案から本番運営までの過程における授業内容・方法等について検証し、学生指導上での問題点、改善案を話し合う。授業の成果物をもとに派遣講師が採点し、学科担当教員とともに成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
実習演習1・2・3	専攻ごとに専門的な実習・演習を行います。	株式会社ミキサーズラボ 株式会社マトリックス
映像音響3	専攻ごとに専門的な授業を行います。	株式会社Narval
卒業制作	専攻で学んだ知識を生かして、実践的な作品制作を行います。	株式会社ミキサーズラボ 株式会社マトリックス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「研修規程第1条 教員が専攻分野における授業科目や授業科目以外の担当業務等指導力の修得と向上を目的として、企業等連携研修を行う講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定」における目的に沿い、講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得させる。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「最新テクノロジーがもたらすレコーディング技術について」	連携企業等: 日本音楽スタジオ協会
期間:	2023年3月22日	対象: 音響芸術科 教員
内容:	<ul style="list-style-type: none"> ・AIがもたらすクリエイティブ業界への影響について ・革新的技術は如何にクリエイティブな可能性を切り開くのかを考察する。 ・AIを用いた楽曲制作やレコーディングについて 	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「情報セキュリティ研修」	連携企業等: 株式会社ネットラーニング
期間:	2022年7月18日	対象: 音響芸術科 教員
内容:	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化社会で活躍できる人材を育成する為に必要な情報セキュリティに関する正しい知識を習得する。 ・ハード面及びソフト面という両面から情報資産を守るという意識を持つことの重要性を理解する。 	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「生成AIとは何か？教育現場での活用について」	連携企業等: グルーヴノーツ
期間:	2023年8月実施予定	対象: 音響芸術科 教員
内容:	<ul style="list-style-type: none"> ・ChatGPTを始めとするAIを用いた教育の可能性 ・ChatGPTなどAI等最新テクノロジーの教育現場での活用方法及び使い方について ・使用時の注意点 	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「教員研修」	連携企業等: 未定
期間:	2023年8月実施予定	対象: 音響芸術科 教員
内容:	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価方法について ・シラバス/コマシラバスについての基本理解 	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

精神面による体調不良に悩む学生に対しての当校のサポート体制について委員に現状を説明したところ、多くの委員から以下のご意見を頂いた。

- ・企業内でも新入社員など若手が精神面による体調不良で就業に影響が出るケースが増えている。
- ・原因の一つとして、コロナ禍にあったここ数年で学生時代に人間関係構築の場が少なかった事も影響があるのではないかと。

以上のご意見を踏まえ、当科では以下のように活用していく。

- ・在学中のみならず学生が社会に出てからも心身ともに健康に生活できるよう、学生時代にしか経験できない人間関係構築の場をより多くつくり、学業以外のイベントや部活動等に対しても支援に努めていく。
- ・当校には専門的な知識と経験を持つスタッフが在在するヘルスサポートセンターがあり、当科の担任は悩みを持つ学生に対して、ヘルスサポートセンターとの連携をより強め、安心して学生生活を送れるよう支援に努めていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 最高顧問	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	IT企業等委員/卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	地域関連/会計専門委員
平川 進	株式会社テレビ神奈川ecom事業局 ecom事業部	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員/卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	クリエイターズ/デザイン企業等委員
西川 恭子	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
宮地 裕	学校法人上野塾 東京実業高等学校 進路指導部部長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和5年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(11) その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和5年9月30日

授業科目等の概要

(芸術専門課程 音響芸術科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			キャリアプランニング1	就職・進路に向けて準備を行います。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			キャリアプランニング2	就職・進路に向けて準備を行います。	1・後	30	2	○			○		○		
3	○			ビジネストレーニング1	ビジネス検定の受験とビジネスマナーを学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
4	○			ビジネストレーニング2	ビジネス検定合格をめざし、ビジネスマナーを学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
5			○	海外研修	学科の特色に基づいたプランで、本場のエンターテインメントを学びます。	1・通	30	1			○		○	○		
6			○	ボランティア1	社会貢献、地域貢献といった体験を通じて、社会に関わる喜びを得ていきます。	1・通	30	1			○		○	○		
7			○	資格対策講座1	学科に関連する資格に対して集中的な対策講座を開催します。	1・通	15	1	○			○			○	
8			○	資格対策講座2	学科に関連する資格に対して集中的な対策講座を開催します。	1・通	15	1	○			○			○	
9	○			外国語1	世界の音楽業界で活躍するために外国語の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
10	○			外国語2	世界の音楽業界で活躍するために外国語の基礎を学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
11	○			音楽基礎1	アーティストと音楽制作を進める為の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
12	○			音楽基礎2	アーティストと音楽制作を進める為の基礎を学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
13	○			ステージシステム1	舞台機構技能検定の内容を元にPAや舞台全般の技術やシステムを学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
14	○			ステージシステム2	舞台音響や舞台全般の技術やシステムを学びます。	1・後	30	2	○			○			○	

(芸術専門課程 音響芸術科)																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
15	○			サウンド基礎	音という現象と音響関連の用語やその理解を目的とします。	1・前	30	2	○			○				○	
16	○			サウンドシステム1	音響関連の用語やその仕組みの理解を目的とします。	1・後	30	2	○			○				○	
17	○			映像音響1	映像や放送関連の用語を学習します。	1・前	30	2	○			○		○			
18	○			映像音響2	映像や放送関連の機器やソフトについて学習します。	1・後	30	2	○			○		○			
19	○			Pro Tools 1	Pro Toolsの機能と操作を学び検定合格を目指します。	1・前	60	2			○	○				○	
20	○			Pro Tools 2	Pro Toolsの機能と操作を学び検定合格を目指します。	1・後	60	2			○	○				○	
21	○			実習・演習1	スタジオシステム全般を学び、音響機器の基本操作を学びます。	1・前	180	6			○	○				○	○
22	○			実習・演習2	スタジオシステムを理解し、作品づくりに向けた基本操作を学びます。	1・後	180	6			○	○				○	○
23			○	ライブステージ鑑賞1	アーティストのステージを観て、周辺を含めたプロの技術を学びます。	1・通	15	1	○				○	○			
24			○	特別講義1	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1・通	15	1	○				○		○		
25			○	特別講義2	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1・通	15	1	○				○		○		
26			○	特別講義3	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1・通	15	1	○				○		○		
27			○	特別講義4	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1・通	15	1	○				○		○		
28			○	マルチメジャー	自分が選択している専攻・コースの枠にとらわれず幅広く学ぶ授業です。	1・通	15	1	○				○			○	

(芸術専門課程 音響芸術科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
29	○			キャリアプランニング3	求人情報の分析や就職・進路に向けて準備を行います。	2・前	30	2	○			○		○		
30			○	キャリアプランニング4	求人情報の分析や社会人への準備を行います。	2・後	30	2	○			○		○		
31	○			ビジネススキル1	社会人としてのPC活用法を学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
32			○	ビジネススキル2	社会人としてのPC活用法を学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
33			○	ボランティア2	社会貢献、地域貢献といった体験を通じて、社会に関わる喜びを得ていきます。	2・通	30	1			○		○	○		
34			○	資格対策講座3	学科に関連する資格に対して集中的な対策講座を開催します。	2・通	15	1	○			○			○	
35			○	資格対策講座4	学科に関連する資格に対して集中的な対策講座を開催します。	2・通	15	1	○			○			○	
36	○			音楽基礎3	音楽制作ソフトの基本操作を通して音楽を学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
37	○			総合業界研究1	音楽・放送・芸能関係の業界の仕組み、仕事について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
38			○	総合業界研究2	音楽・放送・芸能関係の業界の仕組み、仕事について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
39	○			サウンドシステム2	音響関連の用語やその仕組みの理解を目的とします。	2・前	30	2	○			○			○	
40			○	サウンドコンテンツ	音響的に優れた作品から音作りの概念や方法を学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
41	○			映像音響3	映像や画像の編集やアプリケーションについて学習します。	2・前	30	2	○			○			○	○
42			○	ビジュアルコンテンツ	映像や画像等の作品について学習します。	2・後	30	2	○			○			○	

(芸術専門課程 音響芸術科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
43	○			Pro Tools 3	Pro Tools認定上位の機能・操作について学びます。	2・前	60	4	○			○			○	
44	○			実習・演習 3	専攻別にわかれた実習制作を行います。	2・前	180	6			○	○			○	○
45			○	卒業制作	2年間の集大成として、専攻別に作品を作ります。	2・後	240	8			○	○			○	○
46			○	ライブステージ鑑賞 2	アーティストのステージを観て、周辺を含めたプロの技術を学びます。	2・通	15	1	○				○	○		
47			○	特別講義 5	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2・通	15	1	○			○		○		
48			○	特別講義 6	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2・通	15	1	○			○		○		
49			○	特別講義 7	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2・通	15	1	○			○		○		
50			○	特別講義 8	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2・通	15	1	○			○		○		
51			○	インターンシップ	内定した企業で行われる長期研修です。	2・通	540	18			○		○		○	
合計						51	科目	120 (2550)			単位 (単位時間)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 卒業時に必修科目1320時間取得および選択科目を390時間以上取得し、合計1710時間以上取得すること	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 1年次は必修900時間履修すること 2年次は必須420時間、選択科目390時間以上履修すること	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。